

に傳はつてをる『蝦夷紀行』三巻は、その記載の範圍頗る廣く、書中挿む所の寫生圖の數、草木三百、海草十七、奇勝圖百十六、景百、獸十三、禽三十一、貝類三十、器物百十、人物七十二、其他にて都合八百十三點の多きに及んでをる。僅々百八十一日間の旅行日記として、斯く多數の珍奇な寫生畫を收め得たことは、假令今日の組織的な寫真班を以てするも、尙ほ容易の業ではないと思ふ。別名を西洋道人と云つた司馬江漢は、その人が著名なだけに、天明八年に書かれた「畫圖西遊譚」は、約五十年後の天保八年に刊行されてをるが、所謂江戸と長崎と言はれた頃の江戸長崎間の旅行記で、寧ろ旅行圖説と稱するを適當とする、書中載録する所の圖は百三十三ある。以上の二例は如何にも繪畫が主で、旅行が従たる概はあるが、元來旅行が記録に依てその價値を大にするが如く、旅行記録は圖畫を待つてその内容を豊富にし得る。董其昌は畫家を激勵して「不讀萬卷書、不行萬里路、欲作畫祖其可得耶」と云つたが、我が旅行學上からも亦、不寫萬象不遺千篇、欲作大旅行家其可得耶と言へはしまいか。(了)

つて居ましたが、二三ヶ月前からシヨウやザベン俱樂部で有名なアデルヒ・テレス第二十三番館に轉居して一層満足な安定を得たかの感があります。場所にテンブル程な『風がまだ作られて居らぬやうな深い沈黙』はないけれども、虚裝假想の修辭を捨て、眞實な心の昂揚をはかる禮拜堂的の隱密な空氣を漲らして居る一廓であります。『ゼ・イゴイスト』の主張はこうであります。『饒舌な文學評論でない、その使命は娛樂で人の意を轉ぜしむるにない、疲勞し沮喪した人間の爲めに獨に書くので無い。目的は適當な聽衆を得て、之れに獨創的で永久的な文學的作品を與へる、現代の文學的產物をして聽ては二十世紀の文學を構成せしめるにある。』「ゼ・イゴイスト」が掲載する哲學上の文章は論理に合へる形式で形而上學を提起して哲學の新時代を約束する。小説的作品では、英語で書かれる小説といへば通俗で極めて緩漫な文學的形式であるが之れに新しい運命と意義を投げる。詩の上ではその頁を詩形に對する全意想を改造する實驗の爲めに開く。この宣言は必ずしも驚く程破天荒の文字でないのは知れて居りますが、『ゼ・イゴイスト』が少くも過去數年間に實行

一 畫家の肖像

野口米次郎

學燈記者足下、あなたは英國の The Eggist といふ月刊雜誌を注意したことがありませんか。名前だけでは餘り高くも買へない——長屋の路次口に看板が懸つて居るに相違ない寧ろバセチックな雜誌としか思はれませんが。つい近頃までは英博物館近くのブルームスベリー(實際の倫敦の中心はこの邊でせうかワルポール時代では『ブルームスベリーで苺を摘む』といふ句さへありました)に巢をくつて居たのですから發行所の品位は保たれて居ました。詩人モンロウの『ゼ・ポエトリ・ブック・シヨップ』もその近所にあるのですが、何れにも現實の悲みと純な正直の好背景を與へて居ります。若しも彼等が今尙ほ女王朝時代の道德臭を持つて居るポイント街やピカデリ附近にあつたとしたならば、必と不正直な狂想的存在としか思はれませんが。又英國の島國性をひどく尊重するストランド附近にあつたとしたならば、必と孤獨の自負を衒ふ野卑な行爲としか見へます。『ゼ・イゴイスト』は適當な住所を持

した功績は確に一言の價値があると思ひます。(序ですが、こうゆう私もこれまで年に四五度は寄稿して來ました)。つい近頃まで寫象主義詩人の棟梁と許されて居るリチャード・アルデイントンが『HD』の頭文字二つで世に知られた自分の妻君と共にその副編輯者であつたのですが、アルデイントンが職務に就いたが爲め今日は副編輯者の仕事を新詩人エリオット(この男は米國人かも知れませんが)が造つて居ります。この十六頁足らずの小雜誌が目下掲載して居る特種な小説は、英國で立方畫家として人を驚かしたウキンダム・ルユイスのタア Tale であります。この小説を掲載するにも普通の雜誌以上の理智と決斷を要することであり、また『タア』以上に大奮發と作に對する深い信仰を要したのはジェームス・ジョイスの『一青年としての畫家の肖像』A Portrait of the Artist as a Young Man の掲載でありました。このことは數年前のことでありましたが、今日は一卷の書物として買ふことが出來ます。最初ダブリンの一書肆から拒絕せられ倫敦の出版者が取上げなかつたので、或はこの小説は書物として顯はれる見込が無いやらに思はれて居た所が某紐育の書店が『ゼ・

「イゴイスト」社と共同して出版するに至つたのです。出版して見ると意外の成功で、僕が近頃受取つたウキパー夫人（この婦人が「ゼ・イゴイスト」の編輯者なのです）。手紙に依ると目下再版印刷中とありました。こゝうゆう小説でも豫期以上の讀者が英國語にあるかと思ふと多少人意を強うするに足るといふ譯なのであります。學燈記者足下、あなたに書くこの手紙の本趣旨は「ゼ・イゴイスト」の吹聴で無く、實はジョイスの小説の上に懸つて居るのであります。

ウエルズがこの小説に書いた批評の言葉にこうあります、「文學としての要求の権利は Gulliver's Travels の夫れのやうに善良である。大な文字である。その技巧は驚愕に價する全體として成功して居る。書中の會話は立派でスターンでもこれ以上には出来まいと思ふ。世界の大小説のあるもの、やうに upbrining の物語で、アイリッシュ・キャットリック upbringing の最も生きて最も人を信服せしめる繪畫である。その興味は精氣なる確固とした現實の上に全く懸つて居る。我々はステフェンド・グラス（この小説の主人公）を信する、それは小説界稀有の出來事の一である。英國の讀者に

にはこの小説は餘りにアイリッシュ的である。他人の批評はこの位に留めて置きます。それでもこの小説は普通に貴婦人の應接間を飾ることの出來る程度の作品で無いのを知ることが出來やうと思ひます。

『一青年として畫家の肖像』に對する僕の第一の注意はこの文學的格式の上にあつたのです。清澄明瞭で如何にもきび／＼した文體、叙述の確適で何處までも經濟的な省略は僕を驚かし且つ喜ばしめました。僕は著者の現在よりは勿論その將來に於けるボンビリチーを祝福しました。僕がこの小説に與へた賞讃は全然的で、表面上では力強い表現と受取られ乍ら内實は極めてバセチックな物語である點に愛蘭土文學者が全體に於て居る一の大な情調だと思つたのです。表題でほんゝ察せられます通り一青年の自叙傳で、物語をそゝうゆう風に取り扱つた有名な小説では先づ指をジアン・クリストフに屈するのでせうが、實際このジョイスの小説も多少ロマン・ローランに負ふ所が無いとは云へますまい。然しこの小説はジアン・クリストフ以上に勇往奮激を持つて居ります。ある一派の英國の批評家から前記のウキンダム・ルイスがドストエブスキに比較され

對して齎らす第二に重要なことは、この小説に顯はれる各の人物は丁度海や有らゆる自然に向つてのやうに英國人は嫌ふべきものだといふことを當然の事と信じて居る事實をいふ。ドグラスは政治的空氣のなかで生長した、澤山の若い輝いた愛蘭土人が生長した空氣の餘りに正直な描寫であるかも知れぬと恐れる。この小説位單に一冊の書物で英國人と愛蘭土人が斯くも相違して居るのを示した作品は他に見ることが出來ぬ。それからサン新聞紙上に書いたヒュネカールの批評にこうあります、「著者ジェームス・ジョイスは可能的に詩人である、モリバッサン屬の現實派である。その人生の把握、その力強さ、その眞實や事實に對して逡巡無き納受はこの小説をして普通の讀者には不愉快のものとする。躁遊的放縱なユーモアの一種がある。愛蘭土人のやうに皮肉な人間は無い。作家としてジョイスは著しき天賦の人で新しい才能を持つて居る。ダブリンのこの著書に對する批評は耳にしないが必と敵意を起すに相違ない。だれも無罪放免で眞理を語ることは出來まい。ステフェン・ドグラスの肖像は各の方面で不興忿怒を感ぜしめずには止むまい。愛蘭土に喜ばれる

又詩人エリオットがラフオルグに比較されるやうに、ジョイスはフロウベルに比較されて居ります。實際この小説は主人公の心理解剖がフロウベル的に詳細を極めて、殆ど變體とも云はれべき程度に審美的覺性を所持して居ります。正直に赤裸々に報道されて居る周囲の事情は一廉の技巧で色彩されて居ります。主人公の感じ易い心は粗雑な現實が齎す有らゆる苦痛と苛責を、その學校生活でも又貧乏で不運な鄙吝な家庭からでも受けまして自然に不愉快な現實に反抗する騷亂の情を起さざるを得なかつたのです。『彼は心の烈しい眷戀を緩和しやうとした、その心の前には何んなものでも唯詰らなく無關係に見へた……その上不埒（英語では enormities の言葉が使つてあつて、英語で書いてあるだけです）でそれ以上に赤裸々な句を用ひて居りません』を實行したといふ胸中の野蠻な熱望、彼もこの位神聖などには無いと考へた。『所で彼は普通世間並に罪を犯したので彼は實際非常に年の若い時代に女の肉體を知つたのですが、この一旦溺れた情慾から綺麗にさつぱりと洗はれて今度は宗敎的な嚴酷な仕事に服従しました。それでも彼は過去の行爲が永遠に恐しい幻影を投げて彼を

苦めて、精神的苦痛の「アゴニー」から逃げることが出来ず、彼は彼の失はれた無邪氣潔白に向つて泣きました。彼は彼の良心を沈静させやうと試みたのですが全く失敗でして、彼を懺悔室に飛込せしめました。彼は懺悔して許され彼の言葉を借ると「麗はしく神聖に成つた神聖になつた幸福に成つた」のでありますが、彼は何うしても宗教的生活を遵奉することが出来ず、『彼の運命は社會的或は宗教的規則から逃避する様になつた。彼は人とはなれて自分の智識を學ぶ、云ひ替へると世界の保蹄のなかを彷徨し乍ら他人の智識を學ぶやうに運命付けられて居た』と云ふのであります。之れからこの主人公に藝術性の覺醒が起るのであります。極めて敏感の所有者であるドグラスは自分を圍繞する世界の美を感觸し初めた、この小説の後の部分は『如何に彼が彼自身を發見したか』の言葉に盡して居る。之れが自分の家でも、祖國でも或は寺院でも、自分の信じない所に奉事することは僕に出来ぬ。出来るだけ自由に、全部的に、藝術か又は人生の形式に依つて自分を表現したい、自分が自分の防護の武器として用ゐ得る所のものは沈黙と亡命と機巧あるのみだ。これがこの主人

公の獨立の宣言であります。これが彼の生一本な神秘的な自由な不盡根の反逆であります。して彼の將來は如何なるか。彼は世界に未だあつたことが無い美しさを感じたいと希望して、こんな言葉を吐いて居ります之れは兎ても譯されず又譯しては面白くないから原文のまゝに出します。

“The spell of arms and voices: the white arms of roads, their promise of close embraces and the black arms of tall ships that stand against the moon, their tale of distant nations. They are held out to say: We are alone—come. And the voices say with them: We are your kinsmen. And the air is thick with their company as they call to me, their kinsmen, making ready to go, shaking the wings of their exultant and terrible youth... Welcome, O life! I go to encounter for the millionth time the reality of my soul the uncreated conscience of my race.”

學燈記者足下、あなたは僕同様物語が最後に餘りに理想主義に流れすぎて來たのを悲むかも知れません。

僕はこの小説が示した色彩の強烈な言葉の刺繡や淫猥の圓光を持つた現實に對して何等の異儀は感じません。寧ろこの小説が最後までわるびれず現實暴露を辿つて少しも妥協しなかつたのを希望して止みません。此の小説が英語で書れた近代の名品であるのは讀者のだけれども直ぐ知ることが出来る所だらうと思ひます。

(了)

サンタヤナ教授の哲學的

詩人論

衛藤利夫

二、リュクレシアスとダンテとゲーテとの比較

茲で比較と云ふのは、この三大哲學的詩人の中の、何人が最も傑れて居るかを論ずる意味ではない。三人ともみなそれ／＼の特殊の方面に於て最も傑れて居る、誰も、あらゆる方面に於て最も傑れて居るものはない。誰を選ぶといふことは、むしろ個人としての自白であつて、批評ではなから。これが若し、或る讀者がこ

の三詩人より獲る快味の比較と云ふ問題であれば、それは、その人の氣質、年齢、熟達して居る國語、その人に最も親しい主義主張などに應じて異ふのである。しかし比較と云ふのは、この三詩人に、それ／＼存する想像と哲學との型を解剖し、これを通觀するの謂ひである、三人に共通するものを見、三人の相違する處を見、別々の見地よりして、三人の屬する種類を定むるの謂ひである。

さてゲーテはその『ファウスト』に於て、經驗を、直裁に、バラ々々に、且つ基礎を置かず示した。彼はこれを示すに、一の挿話の形を以てした。『ファウスト』てふ一挿話の後ろにも前にも、それとは異なる挿話があつて、見る人が身を動かさずに隨つて、それからそれと現はれて來さうである。『ファウスト』にはこれと云ふ全的なものがない、何となれば、そこには既知の基礎がないから。顧みてリュクレシアスを見れば、兩者の相違點が著しく眼につく。リュクレシアスは實質の詩人である。彼の眼の及ぶ限り、悉く基礎の無い所はない。彼は基礎を見ると共に、そこに生じ得可き生産物をも看取するのである。リュクレシアスの經驗は、